

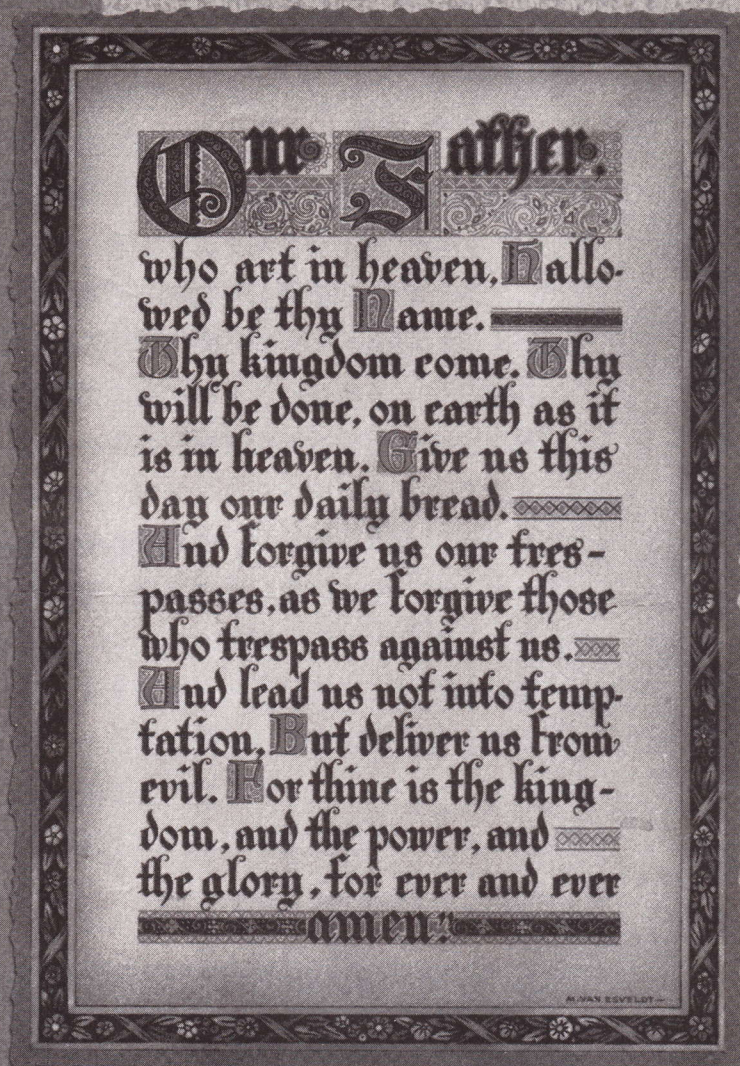
第16回宝塚混声合唱団音楽会

2004年7月3日(土)

開演：6:00

いたみホール

(伊丹市立文化会館)



主催：宝塚混声合唱団

後援：

宝塚市・宝塚市教育委員会

宝塚市文化振興財団・宝塚合唱連盟

ごあいさつ

本日は宝塚混声合唱団の第16回音楽会にお運び下さり、誠にありがとうございます。
ございます。

昨年8月の音楽会につづき伊丹ホールで2年連続の音楽会となり、1000人
近いお客様をお迎えするのに相応しい演奏を…という緊張感を持ってこの日
を迎えました。

今回のプログラムでは全く異なった趣をもつ3つの作品を取り上げました。
始めは邦人の作品から「風に寄せて」。浅間高原の水と風と光が織りなす情景を、
若い詩人の溢れる感性と作曲者の技巧が見事に融合したパステル画調の美し
い作品で、独奏ピアノと合唱とのアンサンブルが情感を揺さぶります。2曲
目は良くご存じの黒人霊歌。とはいっても、この作品は第2次世界大戦前後
のユダヤ人虐殺の悲劇を背景に世界平和を訴えたオラトリオ「われらが時代」
からの抜粋曲で、平和という人類共通の目標実現を、音楽的に普遍性が高い
黒人霊歌にのせて反戦歌風に表現した作品です。合唱曲としては中庸の技術
レベルで歌うことが可能ながら大合唱で奏でるリズムとハーモニーの仕上
りが楽しみなアカペラ曲です。そして最後の作品は、フォーレの現代版とい
われるラターの、まさに癒し系の音楽。最愛の父の死という悲しみを乗り越
えて作られた鎮魂曲ですが、私たちは、生きることの尊さ・喜び・感謝を歌う、
という気持ちで接してきたように思います。管・打楽器・ハープなど小編成
合奏との静かな協演の中で、困難な世において平安があたえられることを祈
るものです。

最後までゆっくりご鑑賞下さい。

2004年7月 宝塚混声合唱団



PROGRAM

1. 風に寄せて

作詩： 立原 道造 作曲： 尾形 敏幸
ピアノ： 國井 美佐

2. FIVE NEGRO SPIRITUALS

FROM A CHILD OF OUR TIME

5つの黒人霊歌

作曲： MICHAEL TIPPETT

休憩

3. REQUIEM

レクイエム

作曲： JOHN RUTTER

ソプラノ： 津山 和代

アンサンブル： ENSEMBLE TAKARAZUKA '04



指揮： 大森 地塩

曲目解説・歌詞・訳

1. 風に寄せて

作詩者立原道造は昭和初期の詩人です。彼が生きた時代は戦争と戦争の谷間の暗い時代でした。だからこそ感傷的な夢のような詩が書かれたのでしょうか？彼は三中入学後から短歌を作り始めますが一高入学後その関心の対象は詩へと変わります。彼は詩人としては風変りな東京帝大工学部建築学科卒という経歴を持っています。東京帝大に入学した昭和9年、初めて信州を訪れ、その風景に魅せられます。この年、堀辰雄、三好達治等と「四季」再刊に参加、以後同誌を中心に作品を発表します。その後、信濃追分での恋愛体験をソネット形式で哀切に表現し、ソネット詩人として出発します。「風に寄せて」他数編のソネットもこの時期に作られた様です。昭和12年には詩集「萱草に寄す」「暁と夕の詩」を刊行しますが、秋に結核を発病、翌年は信州に滞在したり、東北・近畿・山陰・九州へも旅行したりしましたが、年末に症状が悪化し、東京市立療養所に入所、翌14年、第1回中原中也賞受賞が決まった後、3月29日、病状が急変して肉親にも看取られず、ひとり旅立ちます。彼の詩が読んでいて気恥ずかしいほどの感傷に満ちているのは、あまりにも早く人生を駆け抜けて行った詩人の青春そのものだったからでしょうか。

(解説：A 小沢 まさ恵)

待つてゐる それは多分 ちきだらう 三日月の方から
たつたひとり やがてまたうたふだらう 私の耳に
梢に 空よりももつと高く なにを 何かを くりかへすだらう
風はどこに 風はとほくに けれどそれは帰らない もう
私よ いつかおまへは ほほゑむでゐた よいことがあった
おまへは風のなかに おまへは泣かない おまへは笑はない

その五

夕ぐれの うすらあかりは 闇になり
いま あたらしい生は 生れる
だれが かへりを とどめられよう！
光の 生れる ふかい夜に――

さまよふやうに
ながれるやうに
かへりゆけ！ 風よ
ながれのやうに さまよふやうに

ながくつづく まどろみに
別れたものらは はるから ふたたびあつまる
もう涙するものは だれもゐない・・・風よ

おまへは いまは 不安なあこがれで
明るい星の方へ おもむかうとする
うたふやうな愛に 担はれながら

風に寄せて

作詩 立原道造

作曲 尾形敏幸



その一

さうして小川のせせらぎは 風があるから
あんなにたのしく さざめいてゐる
あの水面のちひさいかげのきらめきは
みんな 風のそよぎばかり・・・

小川はものをおし流す
蘂屑を 草の葉っぱを 古靴を
あれは風がながれをおして行くからだ
水はとまらない そして 風はとまらない

水は不意に身をねちる 風はしばらく水を離れる
しかしいつまでも川の上に 風は
ながれとすれずに ひとつ語らひをくりかへす

長いながい一日 薄明から薄明へ 夢と昼の間に
風は水と 水の翼と 風の臉と 甘い囁きをとりかはす
あれはもう叫ぼうとは思はない 流れて行くのだ

その二

風はどこにある 風はとほくにある それはぬない
おまへは風のなかに 私よ おまへはそれをきいてゐる
・・・うなだれる やさしい心 ひとつの蕾
私よ いつかおまへは涙をながした 頬にそのあとがすぢひいた

風は吹いて それはささやく それはうたふ 人は聞く
さびしい心は耳をすまず 歌は 歌の調べはかなしい うれしいのは
たのしいのは 過ぎて行つた 風はまたうたふだらう
葉っぱに わたしに 花びらに いつか帰つて

2. FIVE NEGRO SPIRITUALS FROM A CHILD OF OUR TIME

5つの黒人霊歌 作曲： MICHAEL TIPPETT

作曲家マイケル・ティベット（1905～1998）はブリテンと並ぶイギリス作曲界の長老の一人で、オラトリオ「我らが時代の子」（1942年完成）は代表作である。

ナチス・ドイツにおけるユダヤ人迫害が原因で、パリで起きた亡命ユダヤ青年によるドイツの外交官射殺事件が作曲の契機となって、権力者による迫害とそれに立ち向かう青年（我らが時代の子）の悲劇をティベット自身の作による台本で描いている。バッハ時代のコラールにあたる現代の音楽として、あるいは、迫害されたものの歌として、黒人霊歌（スピリチュアル）が曲の要所で用いられ、平和を希求するティベットの心情が切々と伝わってくるようだ。

本日演奏される曲は、そのスピリチュアルだけを抜き出し、アカペラに再編されたものである。全体は4部～8部編成の合唱と部分的にソロや重唱が加わるという多編成の合唱曲だが、同じ旋律を他声部がオクターブ低く重ねて歌うなどの工夫があり、あたかもオルガンのような響きが聞こえてくる。

（解説：T 若林 成幸・訳：T 原 彬）

1. STEAL AWAY

Steal away, steal away, steal away to Jesus;
Steal away, steal away home, I han't got long to stay here.

My Lord, He calls me, He calls me by the thunder,
The trumpet sounds with in a my soul,
I han't got long to stay here.

Green trees a-bending, poor sinner stands a-trembling,
The trumpet sounds with in a my soul,
I han't got long to stay here.

Steal away, steal away, steal away to Jesus;
Steal away, steal away home, I han't got long to stay here.

逃れ行かん

逃れ行こうイエス様のお傍に、
そして遠いわが家にも。
こんな苛酷な毎日もう沢山だ。
雷鳴でイエス様が私を呼んでなさる。
樹木は折れ、貧しい罪人は震えてる。
私の中でトランペットが響いた。
逃れ行こうイエス様のお傍に、
そして遠いわが家にも。
こんな苛酷な毎日もう沢山だ。

2. NOBODY KNOWS

Nobody knows the trouble I see, Lord
Nobody knows like Jesus.

O brothers, pray for me, O brothers, pray,
and help me to drive old Satan away, Lord.

O mothers, pray for me, O mothers, pray,
and help me to drive old Satan away, Lord.

Nobody knows the trouble I see, Lord
Nobody knows like Jesus.

誰も知らない我が苦悩

誰も知らない我が苦悩。
解って下さるのはイエス様だけだ。
兄弟よ、母達よ、
私の悪魔をお祈りで追い払っておくれ。
誰も知らない我が苦悩、
解って下さるのはイエス様だけだ。

3. GO DOWN, MOSES

Go down, Moses, Way down in Egypt land;
Tell old Pharoah, to let my people go.

When Israel was in Egypt land,
Let my people go.
Oppressed so hard they could not stand,
Let my people go.
"Thus spake the Lord," bold Moses said,
Let my people go.
"If not, I' ll smite your first born dead,"
Let my people go.

Go down, Moses, Way down in Egypt land;
Tell old Pharoah, to let my people go.

4. BY AND BY

O, by and by, by and by,
I' m going to lay down my heavy load.

I know my robe' s going to fit me well,
I' ve tried it on at the gates of Hell.

O, Hell is deep and a dark despair,
O, stop, poor sinner and don' t go there!

O, by and by, by and by,
I' m going to lay down my heavy load.

5. DEEP RIVER

Deep river, my home is over Jordan,
Deep river, Lord,
I want to cross over into campground.

Oh chillun!
Oh don' t you want to go to that gospel feast,
That promised land,
That land where all is peace.
Walk into heaven, and take my seat,
And cast my crown at Jesus' feet.

Deep river, my home is over Jordan,
I want to cross over into camp-ground, Lord!

行けよモーゼ

モーゼよ行けエジプトに。
老獯なファラオに申せ：我が民を解放せよと。
エジプトのイスラエル人は
虐待と苦難に喘いでいた。
豪胆なモーゼは言った。
"言ったとも、我が民を解放せねば
最初に生まれたお前の赤子をなぐり殺す" と。
モーゼよ行けエジプトに。
老獯なファラオに申せ：我が民を解放せよと。

終わりは近い

私は間もなく苛酷な毎日に負けてこの世を去る、
その日も近い。
私のぼろ衣は瘦せた体にピッタリだ。
地獄の一步手前で着た事がある。
地獄は暗黒の深淵で絶望しかない。
主よどうか不幸な罪人が地獄に行かぬ様、救い給え。
私は間もなく苛酷な毎日に負けてこの世を去る、
その日も近い。

深い河

深い河よ、私の家はヨルダンの彼方にある。
この河を越えて元の土地に戻りたい。
子ども達よ、そこの福音の祝宴に参加しない？
そこは神に約束された地で全てが平和だ。
天国に歩いても行けるのさ。
さあ、私と一緒に
苦悩の全てをイエス様に聞いて戴こう。
深い河よ、私の家はヨルダンの彼方にある。
この河を越えて元の土地に戻りたい。



3. REQUIEM

レクイエム

作曲： JOHN RUTTER

第二次世界大戦終結の年に生まれた英国の作曲家ラターは、亡くなった父を偲んで1985年に、このレクイエム（死者のためのミサ曲）を作曲、成功を収めた。

曲は伝統的なレクイエムの「死者のためのミサ」から選んだラテン語式文を、始め終わりと中央に置き、その間に旧約聖書詩篇、英国国教会の1662年共通祈祷書「埋葬式」から選んだ英文が組み込まれている。

ラターは「生と死」のテーマのもとに、全体を「アーチのように」構成した。すなわち1楽章と7楽章は全人類のための祈り、2と6は詩篇、3と5は個人のキリストへの祈りで、中央の4が神の栄光をたたえる。

全曲を通じて現代の透明で洗練された美しいハーモニーが聞かれ、この曲は古い伝統も踏まえた現代英国のレクイエムとなっている。

楽章別に簡単に触れると、

1. 深く、優しく死者の永遠の休息を祈り、主へ寄せる思いが決然と語られる
2. 肅然と主に呼びかけ、主に望みを置いて祈りは頂点に達する
3. ソプラノ独唱は素朴に優しく死者の安息を願い、合唱が支える
4. 天地に充満する主の栄光が明るく高らかに賛美される
5. 「世の罪を・・・」と悲しく始まり、人間のはかなさが歌われ、「・・・決して死ぬことはない」と優美に終わる
6. 主へのゆるぎない信頼が安らかに清らかに歌われる
7. 労苦を解かれた永遠の安らぎが優しく静かに祈られる中、1の後半の旋律が現れて全曲を終わる

今日の演奏は、オルガンと7種の楽器で、独唱・合唱とともに歌って美しい効果をもたらすと同時に、独自にも表情豊かに語りかける。

（解説・訳：B 長尾 精）

（詩篇他新共同訳）

1. REQUIEM AETERNAM

「永遠の休息を」（合唱）

Requiem aeternam dona eis Domine:
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus in Sion:
et tibi reddetur votum in Jerusalem.
Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.
Kyrie eleison.
Christe eleison, Kyrie eleison.

主よ 彼らに永遠の休息を与えてください
そして絶えざる光が彼らを照らすように
神よ シオンで賛歌があなたにふさわしい
エルサレムであなたに誓いが果たされる
私の祈りを聞き入れてください
肉の体はすべて主に帰る
主よ 憐れんでください
キリストよ 憐れんでください
（「死者のためのミサ」から）

2. OUT OF THE DEEP

Out of the deep have I called unto thee, O Lord:
Lord, hear my voice.
O let thine ears consider well:
the voice of my complaint.
If thou, Lord,
wilt be extreme to mark what is done amiss:
O Lord, who may abide it?
For there is mercy with thee:
therefore shalt thou be feared.
I look for the Lord; my soul doth wait for him:
in his word is my trust.
My soul fleeth unto the Lord;
before the morning watch,
I say, before the morning watch.
O Israel, trust in the Lord,
for with the Lord there is mercy:
and with him is plenteous redemption.
And he shall redeem Israel: from all his sins.

「深い淵の底から」(合唱)

深い淵の底から
主よ あなたを呼びます
主よ この声を聞き取ってください
嘆き祈る私の声に耳を傾けてください
主よ あなたが罪をすべて心に留められるなら
主よ 誰が耐えましょう
しかし 赦しはあなたのもとにあり
人はあなたを畏れ敬うのです
私は主に望みを置き
私の魂は望みを置き
御言葉を待ち望みます
私の魂は主を待ち望みます
見張りが朝を待つにもまして
見張りが朝を待つにもまして
イスラエルよ 主を待ち望め
慈しみは主のもとに
豊かな贖いも主のもとに
主は イスラエルをすべての罪から贖ってくださる
(旧約聖書詩篇 130)

3. PIE JESU

Pie Jesu Domine, dona eis requiem.
Pie Jesu Domine, dona eis sempiternam requiem.

「慈悲深いイエスよ」(独唱と合唱)

慈悲深いイエスよ 彼らに休息を与えてください
慈悲深いイエスよ 彼らに永遠の休息を与えてください
(「死者のためのミサ」から)

4. SANCTUS

Sanctus, Sanctus, Sanctus,
Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.
Benedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

「聖なるかな」(合唱)

聖なる 聖なる 聖なるかな
万軍の神なる主
主の栄光は天地に満つ
天の高い所に賛美を
主の御名によって来る者に祝福を
(「死者のためのミサ」から)

5. AGNUS DEI

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.
Man that is born of a woman hath
but a short time to live, and is full of misery.

「神の子羊」(合唱)

世の罪を取り除く神の子羊よ
彼らに休息を与えてください
およそ女から生まれた者は
いのち短くまことにみじめだ

He cometh up, and is cut down like a flower;
he fleeth as it were a shadow.
Agnus Dei,
In the midst of life we are in death:
of whom may we seek for succour?
Agnus Dei,
I am the resurrection and the life, saith the Lord:
he that believeth in me, though he were dead,
yet shall he live: and whosoever liveth and believeth
in me shall never die.

(ラテン語:「死者のためのミサ」から・英語:英国国教会 1662 年共通祈禱書「埋葬式」から)

それは生まれて花のように切り取られ
影のように消え失せる
世の罪を
生のさ中にも私たちは死んでいるに等しい
誰に救いを求めようか
世の罪を
イエスは言われた 「私は復活であり命である
わたしを信じる者は死んでも生きる
生きていてわたしを信じる者は
誰も決して死ぬことはない」

6. THE LORD IS MY SHEPHERD

The Lord is my shepherd:
therefore can I lack nothing.
He shall feed me in a green pasture:
and lead me forth beside the waters of comfort.
He shall convert my soul: and bring me forth
in the paths of righteousness,
for his Name's sake.
Yea, though I walk through the valley
of the shadow of death,
I will fear no evil:
for thou art with me;
thy rod and thy staff comfort me.
Thou shalt prepare a table before me against them
that trouble me:
thou hast anointed my head with oil,
and my cup shall be full.
But thy loving-kindness and mercy shall follow me
all the days of my life:
and I will dwell in the house of the Lord for ever.

「主は羊飼いい」(合唱)

主は羊飼いい
わたしには何も欠けることがない
主はわたしを青草の原に休ませ
憩いの水のほとりに伴い
魂を生き返らせてくださる
主は御名にふさわしく
わたしを 正しい道に導かれる
死の陰の谷を行くときも
わたしは災いを恐れない
あなたがわたしと共にいてくださる
あなたの鞭あなたの杖
それがわたしを力づける
わたしを苦しめる者を前にしても
あなたはわたしに食卓を整えてくださる
わたしの頭に香油を注ぎ
わたしの杯を溢れさせてくださる
命のある限り 恵みと慈しみはいつもわたしを追う
主の家にわたしは帰り
生涯そこにとどまるであろう
(詩篇 23)

7. LUX AETERNA

I heard a voice from heaven saying unto me,
Blessed are the dead who die in the Lord, for they
rest from their labours: even so saith the Spirit.
Lux aeterna luceat eis, Domine:
cum sanctis tuis in aeternum, quia pius es.
Requiem aeternam dona eis Domine: et lux perpetua
et lux perpetua luceat eis.

(ラテン語:「死者のためのミサ」から・英語:英国国教会 1662 年共通祈禱書「埋葬式」から)

「永遠の光が」(独唱と合唱)

わたしは天からこう告げる声を聞いた
「主に結ばれて死ぬ人は幸いである」と霊も言う
「彼らは苦勞を解かれて安らぎを得るからである」
主よ 永遠の光が彼らを照らすように
とこしえに主の聖人らとともに 慈悲深き主よ
主よ 彼らに永遠の休息を与えてください
そして絶えざる光が彼らを照らすように